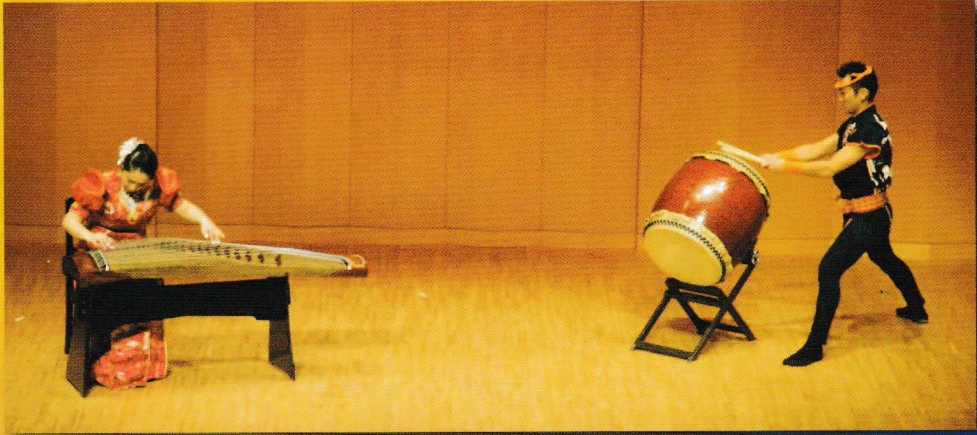


第6回

大東文化大学国際関係学部

アジア芸能のタベ

— 伝統を超えて —



2014年10月25日(土)

開場 14:00 開演 15:00 終演 17:30(予定)

大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂



主催 / 大東文化大学国際関係学部 後援 / 東松山市・東松山市国際交流協会

ごあいさつ



国際関係学部長

新納 豊

本日は「アジア芸能の夕べ」にご来場いただきありがとうございます。早いもので「アジア芸能の夕べ」も今回で第6回となります。毎回お顔出しいただくご常連様も増え、お帰りには「来年も期待しているよ」とのお声かけをいただいております。

本日は中国の伝統的な楽器・古箏をベースとするアンサンブル(合奏)とインドネシア・バリ島のケチャとガムラン音楽をご堪能いただきます。中国・古箏は奏法によってきわめて幅広いバリエーションの音色を持っており、伝統的なソロ演奏ばかりでなくジャズとのセッションや多様な楽器とのアンサンブルが可能です。本日は和太鼓なども登場するそうです。

インドネシア・バリ島のケチャは元来は厄除け儀礼に始まったようですが、いまはヒンドゥー世界の「ラーマヤナ」物語を組み込んで合唱と踊りが披露されます。ケチャは男声合唱で、普通は少しお腹の出たおじさんたちが「チャ、チャ、チャ」と、口三味線ならぬ口太鼓でいくつかのパートに分かれて打ち鳴らす合唱は迫力があります。またガムランは独特の音階を持つ打楽器の合奏で、国際関係学部でも「ガムラン合奏」は正規科目となっています。地域により特色がありますが本日はバリ・ガムランをお届けします。

さて、本学国際関係学部では毎年8月、9月を中心に、アジア9地域の協定校(エジプト、イラン、パキスタン、インド、タイ、インドネシア、ベトナム、中国、韓国)へ2年生を3週間から1ヶ月程度派遣し、語学研修と地域社会・文化の現地体験型学習を1988年以来続けており、今日まで通算約4300名の学生をアジア各地に送り出しています。こうした国際関係学部の教育は文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(2006~2008年度)に採択され、本日の「アジア芸能の夕べ」もアジア各地の芸能や文化の紹介を通じて地域社会の国際化に寄与する地域連携事業として今日まで継続してまいりました。

どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。

14:00 ◆ 開場
キャンパス・ツアー

15:00 ◆ 開演
学部長 あいさつ

15:10 ◆ **第一部**
中国 古箏アンサンブル
出演:毛Yとその仲間たち

1. 京劇変面
2. 古箏ソロ「新シルクロードの夢」
3. 古箏ソロ「乱世、一睡の夢」
4. 古琴・簫合奏「陽関三疊」
5. 竹笛ソロ「野菜売り」
6. 古箏・竹笛合奏「昭君離別」
7. 古箏・和太鼓・京劇舞「剣舞」

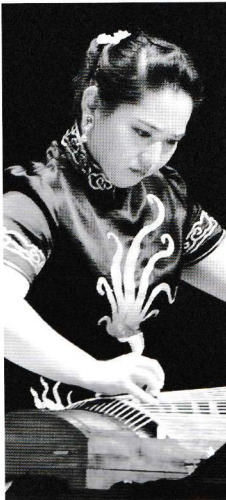
16:00 ◆ 休憩

16:20 ◆ **第二部**
インドネシア
バリ島のケチャとガムラン音楽
出演:サリ・メカール

1. ジャグル・ブバロンガン Jagul Bebarongan
2. パニユンブラマ Panyembrama
3. ジャウク・クラス Jauk Keras
4. ケチャ Kecak

司会進行: 関谷元子(音楽評論家)

舞台監督: 中村 卓



中国 古箏アンサンブル

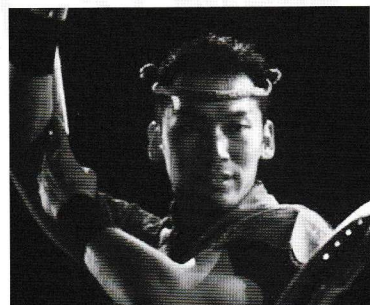
出演者紹介

毛Yとその仲間たち



まお や
毛 Y(古箏)

北京生まれ。2001年、中央音楽学院卒業。ソロアルバム『百花引』リリース。2007年、日本政府国費留学生として東京藝術大学で博士(音楽学)号を取得、中国教育部に認定された古箏博士の第一人者である。現在日本政府文部科学省科研費研究員、並びに東京藝術大学講師。2009年、国連合唱団(N.Y.本部)常任スペシャルゲストを拝命して以来、東京、栃木県、上海万博の国連館・中国電信パビリオン、広島、長崎、沖縄にて公演。また「海のシルクロード」をコンセプトとして、日本各地はもとより、ニューヨーク、世界遺産富岡製糸場、平山郁夫シルクロード美術館等にて公演。「毛Y古箏リサイタル」開催。現在、舞台と学術両面で国際的に活躍中。



いとはら まさし
糸原 昌史(和太鼓)

小学校4年生から太鼓を習い始め、卒業まで地元のイベントや音楽会にて演奏する。1990年、大江戸助六太鼓入門。1996年、同所の専属プレイヤーとなり、国内外のコンサートに参加。現在までに多くのコンサートの構成・演出、作曲などに、多彩で繊細な才能を発揮し、高い評価を受けている。自らプログラミングしたコンピュータと和太鼓を同期した、斬新な楽曲アレンジ等も発表している。他の太鼓グループやNHK大河ドラマ「龍馬伝」、滝沢歌舞伎、HEY! SAY! JUMP SUMMARY 2011等への楽曲提供、指導も手掛ける。国立音楽院和楽科講師。大江戸助六流和太鼓芸能発表会「六門会」会主。



ずん しゅおもん
孫 瀟夢(笛奏)

山東省青島市生まれ。13歳から竹笛を始め、2006年、中国戯曲学院付属中・高を卒業。2007年、「上海FIFA女子ワールドカップ」開幕式に出演。2009年、「上海之春・全国竹笛招聘コンクール」にて演奏賞受賞。2011年、『竹笛芸術研究』(張維良氏責任編集)第五章「人物篇」を編纂。2012年11月、中国音楽学院メインホールにて学位中間演奏会開催。2013年5月、「中国竹笛芸術・園夢」演奏会の企画・出演。同年「竹笛音楽祭」シンポジウム出席。同年11月、中国音楽学院メインホールにて卒業リサイタル開催。2014年、中国音楽学院大学院卒業。現在、東京藝術大学大学院音楽研究科に研究生として在籍中。



りゅうげん
劉 妍(京劇)

1985年、瀋陽京劇芸術専門学校卒業、同年瀋陽京劇院に入団。優秀俳優賞など数々の賞を受賞。1992年、残留孤児二世として日本に帰国。現在、日本全国各地で公演活動を繰り広げている。華麗で機敏な立ち回りを得意とするほか、「変面」という、一瞬にして顔を変える絶技を持つ。2005年、夫の劉東風と共に世界初の「変面ショー」を完成させ、好評を得ている。1999年、テレビ朝日「題名のない音楽会」で「盗仙草」を演じる。2007年、日本テレビ「ドリームビジョン」の「スーパーカメラで中国の国家機密、変面の秘密を撮れ!!」に出演。中国伝統芸能「京劇」と「変面」を融合した俳優の第一人者である。

演目解説

中国 古箏アンサンブル

古箏(こそう)は、2500年の悠久の歴史を持つ、中国の最も代表的な楽器です。21本の絃が張られており、奏者は亀甲で作られた爪を、小指を除いて左右の両手8本の指に巻き付けて演奏します。その音色は、ハープのように柔らかく、またピアノのように豊富なバリエーションを持っているのが特徴です。また、音楽的には繊細かつダイナミックで、伝統的なソロ演奏ばかりでなく、西洋から東洋まで世界のさまざまな楽器とのコラボレーションが可能です。今回の公演では、毛丫が「海のシルクロード」をコンセプトとして演奏する曲目を中心に、中国の竹笛との共演、さらに京劇舞や和太鼓とのコラボレーションなど新たな分野の公演をお楽しみ頂きます。

1. 京劇変面

変面は中国伝統芸能の中でも文化遺産とされ、中国国家秘密の秘技です。マスクを一瞬のうちに変えて、怒りや恐れ、絶望などの喜怒哀楽を表現します。劉妍は、この変面に京劇の動作を加えてオリジナルの演出をしています。京劇『西遊記』の中に変面を取り入れ、三蔵法師を狙う白骨精という女妖怪が白骨から様々な姿に変身、最後には美しい女性に変身する様子を表現します。

2. 古箏ソロ「新シルクロードの夢」

作曲:毛丫

シルクロードはヨーロッパとアジアの人々を結ぶ友好の架け橋です。中華文明はシルクロードに沿って西に進出し、西洋文化もシルクロードを通じて絶えず東洋に伝えられてきました。この曲は、甘肅省の河西回廊の敦煌莫高窟に集う華やかな歌舞団を迎え、唐時代の絵の中の飛天が夢の中で舞っているような情緒を新しく伝承表現した曲です。

3. 古箏ソロ「乱世、一睡の夢」

古典曲

乱世における戦国武士達の夢と戦場における悲壮感を表現します。一瞬の壮絶な激突のありさまと共に、武将の大号令や馬の嘶く音、刀が折れる音までもあますところなく描写した気宇壮大な曲です。

4. 古箏・箏合奏「陽関三疊」

古典曲

中国無形文化遺産の第一号である古箏の名曲です。唐の王維の絶句『元二の安西赴任を送別』を基にした曲で、起句の「渭城の朝雨」より《渭城曲》、結句「西の方、陽関を出つれば故人なからん」から《陽関曲》とも呼ばれます。三疊とは、起句と結句を三度歌うという意味で、のちに歌詞を前後に付加して琴歌になりました。

5. 竹笛ソロ「野菜売り」

編曲:劉管楽

中国山西省の民謡をアレンジした曲で、市で家畜が引く車を駆る様子や、野菜を売る商人達の売り声、値段を掛け合う声など、市場の賑やかな場面を生生きと表現した曲です。

6. 古箏・竹笛合奏「昭君離別」

古典曲

『昭君出塞』という故事をモチーフにした曲です。紀元前33年西漢元帝時代、妃たちは皇宮内の画家に肖像を贈り、皇帝に見せる似顔絵を美しく描いてもらいました。しかし、楊貴妃と並んで中国古代の四大美人の一人である王昭君はそうしなかったため、一番醜く描かれ、皇帝に寵愛されませんでした。ある時、皇帝は、モンゴル王に西漢の大臣になってもらうため、「漢民族の美人を妻に欲しい」という要求を承諾しました。しかし、美しい妃を選ばせなかったため、一番醜く描かれた王昭君に「嫁に行くように」と命じました。送別式の時、皇帝は初めて王昭君本人を見て後悔しました。一番美しい妃だったからです。皇帝が引き止めても振り向かず、王昭君は故郷に別れを告げて遠いモンゴルへと嫁に行き、そこで生涯を閉じました。

7. 古箏・和太鼓・京劇舞「剣舞」

もともと京劇の音楽で、「夜深、独自坐…」という歌詞の出だしから「夜深沉」と呼ばれていました。その後、京劇の女形で有名な梅蘭芳が、『霸王別姫』(さらば、わが愛)という演目で項羽の夫人虞姫が剣を舞うシーンにこの曲を取り入れたことで、のちに「剣舞」とも呼ばれるようになりました。このメロディーは人々によく知られ、親しまれており、京劇音楽以外にも様々な演奏形式にアレンジされ、外交の場でも中国伝統音楽のシンボルとしてしばしば上演されています。ジャンルを超えた古箏・和太鼓・京劇舞のコラボによる演奏は今回が世界初演で、特に太鼓奏者の手付による大江戸助六流の打ち方を活かした前奏や、和太鼓の表拍子と京劇独特な裏拍子とのマッチングが聴きどころです。

インドネシア バリ島のケチャとガムラン音楽

出演者紹介

サリ・メカール Sari Mekar



音の森ガムラン・スタジオを拠点に活動しているバリ・ガムランと舞踊のグループ。1997年、バリ島の著名な演奏家イ・ニョマン・スダルナ | Nyoman Sudarna氏、及びイ・マテ・スエ | Made Sue氏より「サリ・メカール(花開く)」と命名された。日本在住のバリ人演奏家、音の森ガムラン・スタジオの講師陣、留学経験者などを中心に精鋭メンバーにより構成されている。最も一般的なアンサンブルであるガムラン・ゴング・クビヤール(青銅の打楽器を中心にしたアンサンブル)のみならず、ワヤン・クリツ(影絵芝居)、ガムラン・アンクルン(四音音階の青銅の打楽器アンサンブル)、ガンブー(古典舞踊劇)、ケチャ(合唱舞踊劇)等、バリ島の多岐に渡る芸能をレパートリーとし、本格的な演奏会から芸術鑑賞会、公開講座、ワークショップなど幅広く活動中。

主な活動は以下の通り。

2012年6月、宮城学院女子大学「ガムランと舞踊～バリ島の風を感じて～」ワークショップとミニコンサート開催。
2012年8月、東京都立光明特別支援学校「放課後遊び～室内レクリエーション～」開催。2013年7月、静岡文化芸術大学にて室内楽演奏会「2013青銅の響き～バリ島の四音音階のガムラン・アンクルンの世界」開催。2013年11月、山形県小国町・小国中学校 & 旧小玉川小中学校「バリ島のガムラン音楽と舞踊小国町公演2013」開催。2014年6月、世田谷区立上北沢小学校の国際理解集会に出演。

サリ・メカールの活動拠点、音の森ガムラン・スタジオ～Giri Swara Studio Gamelan Bali～は、東京・大田区にあるバリ島のガムランと舞踊のスタジオで、より多くの方々にバリ島の芸能を紹介していくことを目的とし、バリ・ガムラン及びバリ舞踊の定期講座や特別講座を中心に、コンサート・イベント等の企画・制作、ワークショップなどを行っている。また、国内でガムランや舞踊に携わる方々に活動や交流の場を提供している。

<http://otonomori.jp/>

出演者

演奏: 皆川厚一(クندان)、I Putu Gede Setiawan(ガンサ)、I Gusti Ngurah Suryawan(ジュブラグ)、I Ketut Suardana(チエン・チエン)、I Wayan Sudarsana(ジュブラグ)、Nyoman Sudarsana(スリン)、増野亜子(ガンサ)、宮元真佐人(ゴング)

舞踊: Nyoman Sudarsana(ジャウク・クラス/ケチャ)、大野里美(パニユンブラマ/ケチャ)、安田冴(パニユンブラマ/ケチャ)



演目解説

インドネシア バリ島のケチャとガムラン音楽

「神々と芸能の島」と呼ばれるインドネシアのバリ島では、バリ＝ヒンドゥー教の寺院の祭礼や冠婚葬祭などの儀式で必ず舞踊やガムラン音楽が奉納あるいは上演されます。ガムランとはインドネシア各地の様々な打楽器アンサンブルの総称で、地域によって特色があり、その中でもジャワ島中部、ジャワ島西部(スندا)、バリ島のものがよく知られています。今日は、1920年以降、最も多く演奏されているゴング・クビヤールという編成のガムランを演奏します。

ガムランの楽器の多くは、銅と錫を混ぜた青銅から作られており、代表的な楽器には、ゴング(瘤付き銅鑼)、ガンサ(鍵盤楽器)、レヨン(音階順に並んだ12個1組の瘤付き銅鑼)があります。それにクندان(太鼓)、スリン(竹笛)などの楽器が加わります。



バリのガムランの特徴として、コテカンと呼ばれる複雑なつがいリズムがあります。これは2人の奏者のフレーズが入れ子のように絡みあって、結果として一つのフレーズとして聴こえてくるものです。西洋音楽のアンサンブルのように各々が独立したパートとして存在するのではなく、全体の中の部分として演奏し、他人の演奏する音も自分のパートの一つとして捉える、世界でも珍しいアンサンブル形態です。また音階は西洋音楽の様な規格化されたものではなく、同じ名前の音階であっても、それぞれのガムランのセットによって、個々の音高や音程関係は異なっています。また、1セットの中でもそれぞれの楽器は合わせて鳴らしたときにうなりが生じるよう、わざとずらして調律されています。

さらに、チャツチャツチャツ…という独特の掛け声で知られる声の芸能「ケチャ」も上演いたします。

通常は20人以上で編成されるガムラン・ゴング・クビヤールですが、今日は中心となる楽器を取り出して演奏します。踊りの動きと楽器の掛け合いをお楽しみください。バリ・ガムランの第一人者である皆川厚一の解説を加えながら、「サリ・メカール」の演奏と踊りでバリの芸能をご紹介します。

1. ジャグル・ブバロンガン Jagul Bebarongan

バリ島の観光で有名なバロン・ダンスの前奏曲として用いられる器楽曲です。クندان(太鼓)奏者は、手に撥を持って力強く、時には激しく演奏します。

3. ジャウク・クラス Jauk Keras

人間と鬼神の中間の性格を表現していると云われる仮面舞踊です。異形の面を付け、長い爪を動かしながら、超人的な動きで踊ります。踊りの構成は踊り手次第で、ガムラン奏者達は一時も踊り手から目が離せません。

2. パニユンブラマ Panyembrama

イ・ワヤン・ブラタ I Wayan Berata氏によって作られた歓迎の踊りです。元々寺院の祭礼(オダラン)の際の神迎えの踊りから発展したもので、今日では演奏会の時などに最初に踊られ、場を浄め、観客を歓迎する意味を込めて、手に持った銀のお皿から花々を撒きます。

4. ケチャ Kecak

バリの芸能の中でも特に有名な「ケチャ」は、サンヒヤンという初潮前の少女による呪術的な踊りがその原型となっています。サンヒヤンは凶作や疫病が蔓延した時など、神憑りによってお告げを聞こうとする儀式でした。本来外国人の目に触れてはならないものだったため、1930年代にドイツ人画家ウォルター・シュピース氏の提案によって、インド古代叙事詩『ラーマヤナ』の物語を結びつけて今日の芸能としてのケチャが成立しました。



写真:小原 孝博





国際関係学部

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560

TEL 0493-31-1513

FAX 0493-31-1512

HPアドレス <http://www.daito.ac.jp/>